

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 北九州市教育委員会 】

1 学習活動の実際

| | |
|---|--|
| (1) 学習指導要領での指導学年と領域 第5学年 量と測定 | |
| (2) 単元名 「三角形・平行四辺形の面積の求め方を考えよう」 | |
| (3) 対象児童の実態 (2人) | |
| A 児 | <p>第5学年 国籍(マレーシア) 母語(マレーシア語) 在籍年数(1年1ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語の力 平仮名、片仮名はほぼ習得。漢字は、第1学年の漢字を学習している段階である。千葉県で半年滞在していたため、4月に転入してきたときには、日常会話はある程度できる状態であったが、文字の読み書きはほとんど定着しておらず、4月は平仮名の学習から始めた。片仮名は今でも読み書きのときにつまづきが見られる。 在籍学級での学習参加の様子 算数に関しては、日本語の語彙の不足により、在籍学級での授業についていくことはまだ難しい。かけ算・わり算の処理に時間がかかる。また、内気な性格のため、授業中進んで発表したり、質問をしたりすることはほとんどない。 |
| | <p>第6学年 国籍(ロシア) 母語(ロシア語) 在籍年数(7ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語の力 平仮名、片仮名は習得。漢字は、第1学年の漢字を学習している段階である。非漢字圏の国から来日したため、漢字の学習には時間を要している。第6学年の教科書に出てくる漢字はほとんど理解できないため、在籍学級での学習についていくことは大変難しい。 在籍学級での学習参加の様子 算数に関しては、他の教科よりも自信をもっている。ロシアの学校で既習経験がある事項は、在籍学級での学習もある程度は理解している。しかし、未習得の算数用語が多いため、他の児童と同じように学習内容を理解することは難しい。面積については、ロシアの学校で学習しており、求積問題をある程度解くことができるが、未習得の算数用語が多いため、求積方法についての考え方を説明すること等はまだまだ難しい。 |
| (4) 目標 | |
| ◇【教科指導の目標】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 既習の公式をもとに三角形、平行四辺形の面積を求める方法を進んで見出そうとする。 | |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・三角形，平行四辺形の面積の求め方を理解する。 <p>◆【日本語指導の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～の長さを調べましょう」「～は…の半分です」「ずらす」「まわす」など，面積の求め方を考えるときに必要な表現を理解することができる。 ・「たて，よこ，高さ，底辺，面積」など，面積を学習するときに必要な表現を理解することができる。 |
|---|

2 学習活動

| 指導者（教科担任，学級担任），指導補助者（外国人指導コーディネーター，外部指導員，等） 帰国外国人児童生徒専任教諭 | | | |
|---|------|---|---|
| 全体の時間数（5時間） | | | |
| 学習活動の状況，指導内容 | 活動方法 | 指導上の留意点 | 有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について |
| <p>①前時の振り返りをする。</p> <p>②めあてを確認する。</p> <p>③高さが外にある三角形の面積を求める。</p> <p>(1) 作図する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方眼紙に底辺の長さが等しく，面積も等しい三角形を描く。 <p>・三角形の高さを見つけ，面積を求める。</p> <p>(2) 面積の公</p> | 取り出し | <ul style="list-style-type: none"> ・図を提示して，三角形の面積を求める公式を想起させる。 ・底辺の長さを変えずに，面積が等しい三角形を方眼紙に描かせながら，底辺の外にある高さについて目を向けさせる。 ・底辺の延長上と頂点から下ろした直線が垂直になっていることに気付かせることで，方眼上の三角形の高さを見つけることができるようにする。 ・図の一部を移動させるこ | <p>◆ 「底辺」「高さ」「公式」等の言葉の意味を，図と言葉カードを使って確認する。</p> <p>◇ ワークシートを使って，実際に作図することで，高さに目を向けさせる。</p> <p>◇ 児童の作図した三角形を黒板に掲示する。</p> <p>◇ 前時までの学習が分かる掲示物を使って，三角形の面積を求めさせる。</p> <p>◆ 「まわします」という言葉を具体</p> |

| | | | |
|---------------------------------|--|----------------------------------|---|
| <p>式を確かめる。</p> <p>④本時をまとめる。</p> | | <p>とで、二つの三角形の面積が等しいことに気付かせる。</p> | <p>的な操作で認識させるようにする。</p> <p>◆ ワークシートを振り返りながら発言するように助言する。</p> |
|---------------------------------|--|----------------------------------|---|

3 成果

| |
|--|
| <p>①対象児童に対する成果</p> <p>2人の児童の日本語の力を考えて、学習シートを使用しながら学習を行った。その際、めあてや問題文にルビをふったり、長い問題文も短く切っておく等の準備をした。公式には、穴埋め方式で言葉を書き入れさせることで、重要語句を書いて覚えることができるようにした。これらは、めあてを確認し、その時間に何を学習するかを明確にすることに役立った。</p> <p>授業の細案を作ることにより、発問内容を吟味することができた。AUを活用した簡潔な文章にしたり、短く切ったり、ゆっくり話したりするなど、より分かりやすい話し方につながった。予想される児童の反応を考えながら、授業全体を見通すことで、児童の思考を滞らせないような授業の流れを作ることができた。また、効果的な資料の提示の仕方を検討したり、板書計画を作成したりする上でも大変役立った。</p> <p>在籍学級にJSLカリキュラムの学習スケジュールを説明し、学習した内容や言葉は、在籍での学習時間に積極的に使ってもらうようにした。さらに、取り出しでの授業が、在籍学級に先行できるように、第5学年が面積の学習に入ってから、綿密に進度を調整してもらうなど、打ち合わせを密に行ったので、在籍での学習では、先行で学習を進めることができた。その結果、在籍学級では、「面積」「垂直」「公式」「底辺」などの言葉を理解していたこと、三角形の面積の求め方を自分なりに考えていたことなどが在籍学級担任や少人数担当の話から分かり、先行学習の効果を確認することができた。</p> <p>②その他</p> <p>学校の研究テーマの一つとして行ったので、他の教師や他校の教師にも公開することができ、JSLカリキュラムを広めることができた。</p> |
|--|

4 課題

| |
|---|
| <p>○児童の現在の国語力や算数科の実態把握が十分でなく、適切な助言や指導ができたかという疑問である。また、出身国での学習経験が十分把握できず、個に応じたきめ細かな指導には、必ずしもつながっていない。在籍学級との連携や情報交換をさらに進め、その児童がスムーズに学習に入っていく、のびのびと学習に取り組むことのできる環境作りをさらに進めることが大切である。</p> |
|---|